

フラットデッキ安全チェックシート

(施工管理者: 自主検査用)

対象エリア	階	工区
調査日 年 月 日		
調査者		

建築概要	工事名称	用途	
	建設場所		
	構造・規模	延床面積	m ²
床スラブ施工概要	フラットデッキ種類	メーカー名:	商品名:
		使用板厚(mm): 0.8、1.0、1.2、1.4、1.6	表面処理: Z12、Z27、その他()
	コンクリートの厚さ		
	コンクリートの種類	普通、軽量1種、軽量2種	
	梁(型枠)との接合方法	アークスポット溶接、釘止め、ドリルビス止め、継ぎ筋(フック筋)溶接、その他()	
	中間支保工の有無	有 [支柱間隔:@ mm以下] ・ 無	

チェック時期	No.	チェック項目	確認	日付	是正
安全共通事項	1	安全保護具(ヘルメット、安全帯、皮手等)は適切に装着しているか		/	
	2	KYミーティング等行い、危険事項の周知徹底を図っているか		/	
荷降し ↓ 揚重時	3	トラック荷降し時の荷取り方法・順序は適切か(荷崩れ防止)		/	
	4	揚重方法およびワイヤー・吊具は適正か		/	
	5	製品は変形していないか		/	
	6	仮置場の安定性および仮置き方法は適切か		/	
	7	仮置き時の落下・飛散防止処置は適切に行っているか		/	
フラットデッキ 施工時	8	開梱時の荷崩れ防止対策は適切か		/	
	9	フラットデッキを支持する梁型枠は完成した状態にあり、かつ強度は十分であるか		/	
	10	フラットデッキ受材の取付は適切か		/	
	11	RC造・SRC造の場合、縦桟木の設置は適切か(@600mm以下設置必須) また、セパレーターの設置は適切か		/	
	12	所定のフラットデッキかかり代が確保されているか		/	
	13	割付図面通りに正しくフラットデッキが配置されているか		/	
	14	フラットデッキと梁との接合は適切か(端部固定・落下・飛散・ズレ防止) ☐ S造: アークスポット溶接等 @210mm以下 ☐ RC、SRC造: 釘止め等 @210mm以下 ☐ 地中梁、PC梁: 継ぎ筋溶接等 @600mm以下		/	
	15	オフセット寸法は40mm以下となっているか (40mmを超える場合は適切な事前強度検討がなされているか)		/	
フラットデッキ 敷込み後	16	フラットデッキリブおよびエンドクロス部の変形・切断はないか		/	
	17	中間支保工の設置忘れはないか(打設前作業時にも必要)		/	
	18	鉄筋仮置き時など、フラットデッキに過度の集中荷重が掛かる場合、適切な補強措置(補強支保工等)が施されているか		/	
コンクリート工事	19	開口部における作業者の転落防止措置(立入禁止措置等)が施されているか		/	
	20	施工時作業荷重は1,470N/m ² (150kgf/m ² : 通常のポンプ工法)以下の計画として適切に行われているか		/	
	21	中間支保工は所定の存置期間解体しない工程となっているか		/	

許容スパン表

※コンクリート種別: 普通コンクリート($\rho = 2.4\text{t/m}^3$)、単位: mm(ただし10mm単位で切捨て表示)

スラブ 厚さ(mm)	支持区分 施工状況の種類 板厚(mm)	許容スパン(mm) 【中間支保工なし】									許容スパン(mm) 【中間支保工あり】					
		S造、またはRC・SRC造のⅠ類					RC・SRC造のⅡ類		RC・SRC造のⅢ類		S造、またはRC・SRC造のⅠ類			RC・SRC造のⅡ類		RC・SRC造のⅢ類
		0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.0	1.2	0.8	0.8	1.0	1.2	1.0	1.2	0.8	0.8
120		2,610	2,870	3,040	3,160	3,270	2,660	2,910	2,130	4,370	4,900	4,900	4,900	4,900	4,270	4,150
130		2,540	2,830	2,990	3,110	3,220	2,590	2,840	2,080	4,150	↑	↑	↑	↑	4,150	3,950
140		2,480	2,790	2,940	3,060	3,170	2,530	2,770	2,030	3,950	↑	↑	↑	↑	3,950	3,770
150		2,420	2,750	2,900	3,020	3,130	2,470	2,700	1,980	3,770	↑	↑	↑	↑	3,770	3,600
160		2,370	2,700	2,860	2,980	3,080	2,410	2,640	1,930	3,600	↑	↑	↑	↑	3,600	3,450
170		2,320	2,640	2,820	2,940	3,040	2,360	2,590	1,890	3,450	↑	↑	↑	↑	3,450	3,310
180		2,270	2,590	2,790	2,900	3,010	2,320	2,540	1,850	3,310	4,900	↑	4,640	↑	3,310	3,180
190		2,230	2,540	2,750	2,870	2,970	2,270	2,490	1,820	3,180	4,750	↑	4,540	4,900	3,180	3,060
200		2,180	2,490	2,720	2,830	2,940	2,230	2,440	1,780	3,060	4,570	↑	4,460	4,880	3,060	2,950
210		2,140	2,440	2,680	2,800	2,900	2,190	2,400	1,750	2,950	4,400	↑	4,380	4,800	2,950	2,850
220		2,110	2,400	2,630	2,770	2,870	2,150	2,350	1,720	2,850	4,250	↑	4,250	4,710	2,850	2,750
230		2,070	2,360	2,590	2,740	2,840	2,110	2,310	1,690	2,750	4,110	↑	4,110	4,630	2,750	2,660
240		2,040	2,320	2,540	2,720	2,810	2,080	2,280	1,660	2,660	3,970	↑	3,970	4,560	2,660	2,570
250		2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	2,040	2,240	1,640	2,570	3,850	↑	3,850	4,480	2,570	2,500
260		1,970	2,250	2,470	2,660	2,760	2,010	2,210	1,610	2,500	3,730	4,900	3,730	4,420	2,500	2,420
270		1,940	2,220	2,430	2,620	2,730	1,980	2,170	1,590	2,420	3,620	4,810	3,620	4,350	2,420	2,350
280		1,920	2,180	2,390	2,590	2,710	1,950	2,140	1,560	2,350	3,520	4,680	3,520	4,290	2,350	2,290
290		1,890	2,150	2,360	2,550	2,690	1,930	2,110	1,540	2,290	3,420	4,540	3,420	4,230	2,290	2,220
300		1,860	2,120	2,330	2,510	2,660	1,900	2,080	1,520	2,220	3,330	4,420	3,330	4,170	2,220	

<<RC・SRC造における施工上の安全性を確保するための施工割増係数>>

施工管理状況に応じて施工割増係数(α)を選定する。

施工状況の種類	施工割増係数(α)	施工条件等
Ⅰ類	1.0	RC造またはSRC造の場合で、荷重条件、施工条件等の適切な設定、管理により施工上の安全性が確実に確保される場合。
Ⅱ類	1.25	Ⅰ類以外のRC造またはSRC造の場合で、板厚1.0mmまたは1.2mmのフラットデッキを使用する場合。
Ⅲ類	1.5	Ⅰ類以外のRC造またはSRC造の場合で、板厚0.8mmのフラットデッキを使用する場合。

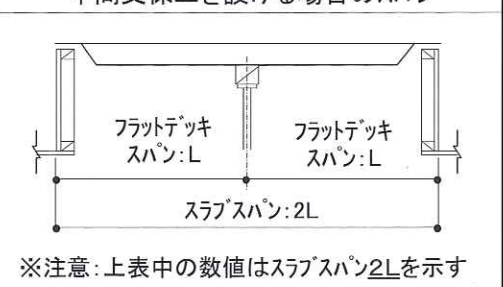
※1 詳細は、『床型枠用鋼製デッキプレート(フラットデッキ)設計施工指針・同解説』本編 4章4.9 aを参照願います。

※2 施工割増係数(α)使用時の断面応力検討:

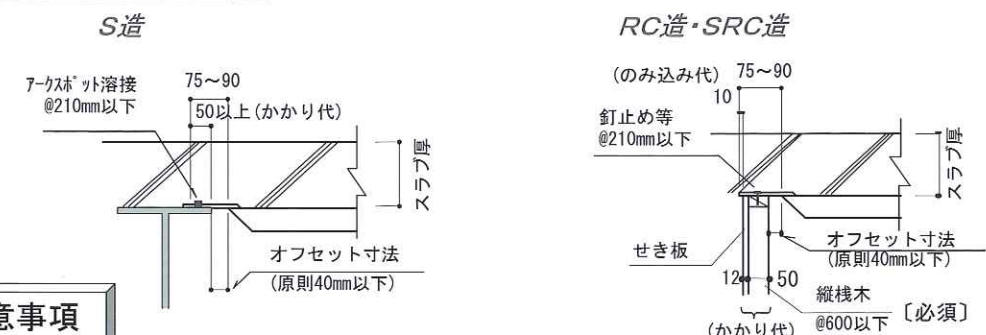
$\sigma / f_b \leq 1/\alpha$ [このとき、 σ : フラットデッキの引張側曲げ応力度、 f_b : フラットデッキの許容曲げ応力度(205N/mm²)を示す]。



中間支保工を設ける場合のスパン



フラットデッキかかり部標準納まり



使用上の注意事項

- 安全性確保のため、「床型枠用鋼製デッキプレート(フラットデッキ)設計施工指針・同解説」の規定を遵守し、確実に施工を行うこと。
- RC造・SRC造の場合、指針の規定通り必ず「縦さん木」を設置し、かつフラットデッキ端部を所定の間隔で釘止め等を確実にし、フラットデッキ支持部の固定度を確保すること。
- コンクリート打設時には、過度に山盛りにしたり、あるいは作業者が局所的に集中したりすると許容荷重をオーバーすることがあるので、集中荷重を避けるよう配慮すること。
- フラットデッキを載せる梁・壁型枠においては、水平方向にかかる荷重についても、強度・剛性を確保する必要があり、型枠の開きや傾倒および倒壊防止のための水平つなぎや筋交い等の措置を確実にすること。